



善永寺報

報恩講版

みよりの秋も深まり報恩講の季節となりました。報恩講は浄土真宗門徒にとつて最も大切な行事です。

宗祖親鸞聖人が今から七六一年前、弘長二（一一二六）年十一月二十八日に亡くなられましたが、この日を今日の暦に換算すると一月十六日になります。京都の本願寺では一月九日から十六日まで、宗祖のご恩に感謝する「ご正忌報恩講」が勤まります。浄土真宗の各寺院や門徒は、一



月は本山にお参りするの
で、それ以前に「お取り越し」といつて、それぞれに報恩講

をおつとめ致します。

善永寺では下記により「報恩講」をお勤めいたします。

本年は新型コロナウイルス感染症が五類になり、従来の報恩講法要にもど

報恩講法要

して実施致します。

十一時よりお齋（会食）、十二時より法要法話をお勤め致します。

ぜひ皆様でご参拝いただき、宗祖親鸞聖人のお徳を共に偲びましょう。

また、報恩講の「報恩」とは恩に報いることです。私たちが日々生きていくためには親の恩や師の恩など、いろいろな恩があります。報恩講の報恩とは宗祖親鸞聖人の恩に限らず、親鸞聖人の師である法然上人、私たちをいつも見守ってくださる阿弥陀如来の恩ももちろん含まれます。念仏の教えに今

まさに遇っていることに感謝し、この報恩講法要をお勤めしましょう。



○報恩講法要 十一月二十三日(木)

本堂にて

午前十二時より

報恩講法要

奉讃大師作法

御俗姓拝読

ひきつづき法話

寶専寺住職 遠山泰範師

二十一日(火) 午前十時

幼稚園児報恩講

二十六日(日) 午後四時

スカウト報恩講

○二十三日午前七時の晨朝法要は正信偈行譜です。

○受付はロビー内で行います。

報恩講について(解説)

報恩講のおこり

浄土真宗の報恩講のはじまりは、親鸞聖人が往生されてから、師法然上人のご命日に「二十五日のお念仏」をおつとめされていたものを、「毎月二十八日」と、親鸞聖人の命日に改められた念仏の集会が始まりといわれています。

第三代覚如上人は、永仁二年(一二九四)の冬、親鸞聖人の三十三回忌を迎えるにあたって、報恩謝徳のために『報恩講式』を作られ、これ以来、親鸞聖人のご命日におつとめする法要を「報恩講」と呼ぶようになりました。続いて翌年、聖人御一代を絵巻形式の絵図と詞書であらわされた「善信聖人絵」(親鸞伝絵)を作られ、現代もこれが基礎となって、御絵伝は余間に、また「御伝鈔」を拝読するのが報恩講のならわしとなっています。

御伝鈔と御絵伝



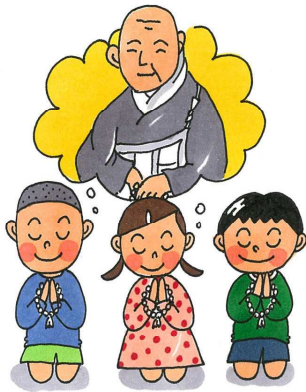
覚如上人が作られた「善信聖人絵」は、詞書の文章と絵とを交互に配した絵巻形式の伝記ですが、その後、増補改訂されて題名も「本願寺聖人親鸞伝

絵」となりました。

それがいつの頃からか、聖人のご生涯を多くのご門徒の方が拝見できるようにと、絵巻の文章と絵を別々に分け、今の御伝鈔と御絵伝と呼ばれている形式になりました。これより聖人のご一生の物語が報恩講に拝読され、また余間に御絵伝をお掛けするようになりました。

御伝鈔は上下二巻からなり、御絵伝は四幅本が用いられ、画面の下から上へ、また右から左へと拝見するのが順序となっています。

善永寺の「御絵伝」は元文五年(一七四〇)本願寺より下賜されたもので



築地本願寺の報恩講

築地本願寺では十一月十一日から十六日まで報恩講法要がお勤めされます。こちらへもお参り下さい。十四日の午後の法要には副住職も出勤します。

ご本山の報恩講

ご正忌報恩講と呼ばれ、一月九日から十六日まで京都本願寺(西本願寺)でおつとめになります。

○初御座・門信徒新年会

来年も感染予防のため中止します。

◎善永講について

善永寺ではご縁のある皆様は毎年善永講会費(年間護持会費)として、一口二千元、三口以上をお納めいただいています。納入の時期は行事の時やお参りに来られたときなどいつでもかまいません。また振り込みでも受け付けています。お問い合わせください。



「善永寺報」報恩講版 2023

発行 浄土真宗本願寺派善永寺

住職 高輪真澄

東京都大田区萩中一十一-二十四

〒144-0047

電話 〇三-三七三九-五六四一

FAX 〇三-三七三九-五六四〇

<https://www.zeneji.jp/>

E-Mail: takanawa@zeneji.jp

郵便振替 00100-1-94128 善永寺